

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	脾摘を行った溶血性貧血患児における血液生化学所見の推移および術後合併症の検討(後ろ向きコホート研究)
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) (職名) (氏名) 消化器腫瘍外科 講師 榊屋隆太
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2026 年 12 月 31 日
対象となる方	2006 年 1 月から 2024 年 12 月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち遺伝性球状赤血球症または不安定ヘモグロビン症と診断され脾摘手術を行った、手術当時 15 歳未満の患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、合併症の有無(血栓症、感染症、胆石症など)、既往歴、身体所見、血液検査データ (ヘモグロビン、血小板、ビリルビン、LDH など)、治療状況(同時に行った胆嚢摘出の有無など) 等
研究の概要 (目的・方法)	遺伝性球状赤血球症または不安定ヘモグロビン症による溶血性貧血に対しては脾摘が行われます。脾摘によって貧血が改善しますが、脾摘後重症感染症や血栓症などの合併症リスクを伴うことが報告されています。一方で小児の患者さんにおける脾摘後の血液検査所見の変化について検証した報告は少ないことから、われわれは手術前後の管理をより良いものにするためには検査結果の推移と術後合併症について検討することが必要と考えました。 今回の検討では術前と術後の血液検査の結果、術後合併症の有無について、過去の診療情報をもとに検討します。
個人情報の保護	この研究で収集される情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定

について	できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院消化器腫瘍科 榊屋隆太 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089－960－5975